



## 国際化時代に

同窓会長 藤原平蔵

創立七十年記念式典は平成元年十月二十八日に目出度く挙行されました。

とくに記念事業の創協会館の建設、校史の発刊、同窓会名簿の発行、など格別の御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

御厚意による、創協会館は在学生の部活動、クラブ活動はじめ、各種教育の場として大いに活用されています。

平成二年三月には、三百二十一名の新会員を迎え、一万七千三百二十三名の強力を同窓会となりました。

各位には、それぞれの職務に精励、雄々しく活躍されていることは、最上のはこりであります。

時代は高齢者社会の到来、情報化、国際化といちじるしく進展し、経済大国として人手不足のなかで、躍進を

つづけているとき「ものの豊かさより、心の豊かさ」が望まれる昨今、各分野を担当される方々の心労を察いたします。

かつて培かれた「勤労・自治・向上」の三つの語は、常に生活の中に生かされているものと思います。

最近ば、地球環境の問題が著しく大きくとりあげられ、家庭、職場、地域そして、日常生活、地球の何処に生存していても、とりくまねばならぬ問題であります。

健康は何よりの「宝」であります。

友情豊かな皆さまがより一層心身を鍛錬して、健康で活躍、成功されんことを祈念いたします。



## 校風の発揚を願って

学校長 中 島 正 雄

会員の皆様には益々御健勝で御隆昌のことと拝察し、お慶び申し上げます。

母校の発展と充実・活性化のために、平素より深い関心と期待をお寄せいただき、更には暖かい支援を賜っておりますことに、厚くお礼を申し上げます。

昨年10月28日に創立70年記念式典が盛大厳肅に挙行でき、本校の弥栄を寿いで頂きましたことに、衷心より感謝いたしております。その折、記念事業の一つとして発刊された校史「七十年史」は好評で、県外の大学、研究機関、図書館からの寄贈要請も多々あり、在庫がなくなりました。また、事業のメインは何といても同窓会館である「朝嶺会館」の建設であります。

この「朝嶺会館」は、休業中の部活動の合宿、諸会合等に広く活用されており、県内高校PTA・同窓会の視察もあり、羨望の眼で見られております。その活用の一つを紹介します。今夏、第3学年の試みとして、学習意欲の増進と学習法の体得を目指し、先生方と大学進学希望者13名——寂しい人数ですが——による共同宿泊学習を3泊4日で実施しました。生徒達は真剣に、意欲をも

って取組み、午前1時頃に漸く就寝し、午前6時半には起床するという受験生らしい生活であったと聞きました。丁度この合宿中、PTAの上市地区懇談会が同館会議室で開かれ、出席された父母は、生徒の生き生きした表情とマナーの良さに感動され、激励するという一幕がありました。1・2年の父母達は帰宅後、早速この模様を息子・娘に伝え、「こういう合宿に参加したい」ということで、翌日から最近にない学習への取組みを始めたということです。合宿後も、生徒達は職員室へ質問に登校し、学力増強に努力しております。会員の皆様と一緒に声援を送ってやりたいと思うと同時に、この一事を他に広く波及させたいと願っています。

学校と生徒が一体になって、真剣に学習環境造りに取組めば、校風の発揚は疑いなく目前にあると信じます。部活動も着々と自信をつけてきております。教育は、継続的な愛情と信頼によって為されることはいまでもありません。家庭内の教育も然りと思えます。

最後に、皆様の益々の御発展と御活躍を祈念すると共に、母校への御協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 故 山本宗間先生を偲び同窓会の発展を希う

前校長 柳 瀬 菊太郎

会員各位には益々ご健康でご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、昨年は母校創立70年に対し、朝嶺会館の建設をはじめ、70年史の発刊や一連の記念行事等が平成元年と年号も改めた節目の年に何とか完了することができました。これも偏に会員各位はもとより母校教職員並びに地域の方々のご支援、ご援助があったからこそであり、当事の責任者の一人として改めて深く感謝申し上げます。本当に有難うございました。

思えばその間、募金活動や校史の編纂等の苦勞、各支部での並々ならぬ活躍等、夫々の分野での努力が走馬灯のように思い巡らされ、校史を編きながら感慨に浸っているところであります。

それにつけても、県下はもとより全国的にもユニークな同窓会活動として発展した原動力は、今は故人となられた山本宗間先生であり、先生のご功績を称えと共に先生を偲ばずには得られません。先生は一生のうち様々な分野で活躍され、その業績は周知のとおりですが、とりわけ、母校の発展と同窓会活動の充実に献身的な努力を傾注され、34年間の永きにわたり同窓会長として本会

の充実発展に寄与されました。

創立70年の記念すべき歴史的行事を先生が見られたらどんなにか喜ばれたことでしょうか。今も語りかけながらほほ笑んでおられる気がしてなりません。是非先生に参加して頂きとうございました。

改めて先生のご冥福をお祈りする次第であります。

先生の長い年月をかけての同窓会活動の発展ぶりは、会報や「乗り」或いは同窓会名簿の中に、更には先生自らの出版物に残されていますが、何といても中庭にある「友情の碑・庭」でありましょう。先生は日頃から本校を「友情の名門校」に育てようとの念願から兼てより検討していましたが、昭和57年3月に完成し、20日に除幕式が行われました。今日の教育のあり方の一つとして「思いやりのある心の養成」が叫ばれていますが、今更先生の先見の明に驚くばかりです。

先生の築かれた汗の結晶「友情」の灯を永遠に消してはなりません。より一層同窓会が発展することが母校の発展に伝承されると信ずるものであります。一層のご協力をお願い申し上げます。

## 第16回 婦人部の集いに参加して

上市高等女学校 第18回（昭和19年3月卒）

### 松岡 富美子

ていっばいでした。

まとめとして教育の場に欠けているのは「感動」であること。そのためには0～3才、小学校に入る前までのしつけが大切だと強張されました。

「感動」これは教育の場ばかりではないと思います。私たち老年者もとえ肉体的には老化しても、心の美しさを失わず感動する心を保ちたいものです。

懇親会后、二階の和室を見学しました。そこには数人の有名な大家の書が種々かかげられてありました。その中に私たちの恩師、故松井八郎先生の書もありました。会館のために奥様をご寄贈なさったとか、教えを受けた私たちにとって迫りくる大きな額の一字一字が先生の思い出とグブッてありし日を偲び、涙がにじみ出てきました。

また、坂井部長さんを助け、懇親会のせわ、後しまつその他の仕事を協力しあって一生懸命なさっておいでの姿に、私なりに胸にこたえるものがありました。

友情とはなんてすばらしいものだろう、この友情の輪を一段と広げていけば一層婦人部が進展すると確信しました。しかし、このような友情を深める出会いも健康であればこそ実現できるのです。

藤原同窓会長さんの凜として生きておいでの健康体にあやかって私たちも、先ず、健康第一に心がけ、これからは剣道会館を出会いの場として有意義に利用すべきだと思います。命ある限り美しく悔いのない人生を、そして一日一日を尊く生きているんな事に励みたいと思います。終わりに母校のいよいよご発展と諸先生方、同窓の皆様の一層のご健勝をお祈りいたします。

今年も酷暑が続きしのぎ難い毎日ですが、同窓の皆様には益々お健やかにそれぞれの分野でご活躍の事と心からお慶び申し上げます。

婦人部では皆様のご芳志の結集で創立された同窓会館で6月10日に初の集いが開催されました。

会館はその名もゆかしく剣道会館と命名されました。玄関を入るとロビーがあり私たちは一階の研修室に集まりました。

本年は例年になく第3回卒の大先輩を陣頭に76名も出席され、なつかしい先輩・後輩共々久しぶりの出会いに話はずみ、会場は熱気にあふれました。

来賓として藤原同窓会長、中島学校長、柳瀬前校長、富樫先生、その他3名の先生方を迎えました。

女学校の校歌斉唱の時は戦時中の苦しい在学当時を思い出し感無量でした。引き続き永年婦人部のためにおつくし下さった富樫先生や、歴代の婦人部長様3名に表彰状が贈られました。この方々のお力ぞえのお蔭で今日の婦人部が存在するのだと感謝の念でいっばいでした。

次に同窓会長、学校長のご挨拶があり、そのあと議事が進行し、最後に前校長柳瀬先生より「人生いろいろ」と題した講話がありました。

先生は本校15代目の学校長で母校であるこの学校に通算20年近くも奉職されたとか、終始温顔でユーモアたっぷりの話しぶりには会場に笑い声がたえず和やかな雰囲気になりました。しかし、故山本宗間名誉会長の思い出話の時は宗間先生のお人柄の偉大さに心を打たれ、ご冥福を祈らずにはおられませんでした。

また、これからは高校生激減の時代が訪れ平成8年頃より生徒数が半分へるなど憂うべき現像を耳にし、量よりも質をめざし何よりも上市高校の存続を願う気持ち

## ◇◇◇ 思い出 ◇◇◇

卒業50年

### “日々神仏に感謝”

皆様お元気でいらっしゃいますか。今、NHKで「凜々と」が放映されていますね。朝の太陽が暗々と登って来る神々しさ、海の彼方に連なる山並、雪渓の雄大なる姿が一瞥されて心のときめく一瞬です。あの山麓が我が故郷でございますね。山の美しさと、情冽な河の流れは人々の「心の潤い」ともなっております。それは小さな町の女学校であったけれども、その校歌は素晴らしい。私は胸を張って歌い、誇りを覚えました。夢とロマンを求めつ、の爽やかな青春の日々でもあったのであります。

人生五十年、振り返って、ひとときの夢でもあります。第二の人生を歩いている私達はそれぞれの立場は異つても、納得の得る道を歩いているに違いありません。軀の弱かった私は、「人は何の為に生れ死ぬのか」と思い悩みました。幸い信仰深い環境の中で祖父の影響を受けて、早くから神仏に帰依する心が芽生えていました。ある日、祖父は「心に太陽を、唇に歌を持って」と語った事があった。未だ幼い私はその意味を理解出来なかったのに、何故か忘れなかった様であります。

卒業40年

### “還暦を前にして”

昭和19年4月、当時は県立上市農林学校であり、農家の長男たるが故をもって、受験入学をいたしました。だが、当時は、受験倍率は県下でも大変高い方であったと思う。当時は戦中たけなわの頃でありまして、軍時訓練と丸山農場での体験実習が殆どであったと思います。ゲートル、戦闘帽、地下足袋が私達の通学のスタイルであり、今日から考えると大変な時代であったと思います。

そして入学時は4年で卒業出来るとの事でありましたが、翌20年8月終戦となって、学制が5年制となり、更に学制の改革が行われ今日の6：3：3制のため、高校卒を望む生徒は6年、通学しなければならないようになりました。旧制度で、卒業を希望する生徒は5年で卒業ができた訳で、旧制卒業は最後の学生であったと思

上市実家高等女学校 第14回（昭和15年3月卒）

藤原英子

次の世代の切なる願いが込められてあったのでありましょう。深く心に残る言葉でありました。我々は三十億年の生命の歴史を背景に、この尊い一日に学ぶべきものがあまりにも多く、進むべき道も無限である事を知り感動しました。時には右住左住する事があっても、人生劇場の主人公は自分だからとひたすらに、今を生きる事を念願しております。お経に「無財の七施」というのがありますが、笑いの七功德も、大いに生活の智慧としてゆきたいと思えます。「歌を忘れたカナリヤは背戸のお山に捨てましようか」姥捨山に捨てられない様に、明るい雰囲気での楽しい日々を過ごさせて頂きたいのであります。

真実一路の旅なれば真実鈴ふり思い出す、若き日の懐かしい詩が秘やかに広がって来ます。

七滝の落ちて滝音一つなりぬ  
父の忌の椿の白さ見つめをり  
白蒿蒲母の背小さくなり給ふ

若くして旅立った友よ、心から御冥福をお祈り申し上げます。又逢う日まで元気で。

上市高校畜産科 第2回（昭和25年3月卒）

清水勇幸

ます。お蔭で上市へ6年も通学した為に、上市の町が今日でもなつかしく、商店の経営者でも3代目が現役と、3代に亙つての知りあいもあり、今更乍ら我々の年を考えさせられます。

上市高等学校を卒業して、既に40年の星霜が流れる訳で、我々の同級生も殆どのは、来年初り有難くない還暦を迎え、顔面に年輪を加え、頭髮はうすく或いは又白霜をいただく年となり、第三の人生を歩いている人も多いと思えます。

お互いに、「人生百年。あと40年」。下りの階段をあわせず、ゆっくりと時間をかけて降りたいものと考えるのは、ちょっと欲張りでしょうか？ まだまだ現役の気持を捨てないで、長生きしようではありませんか。

## 卒業30年

### “人生の後半戦を有意義に”

昭和31年入学した私達。その頃ようやく日本の経済は戦後の混乱期を脱し「もはや戦後ではない」との力強い経済白書宣言がなされ「成長と近代化」へ向う時期であった。ど、このように書けるのも回顧しての観点からである。

当時は私自身そんな意識もなく、社会誠意性も乏しい自我に目覚めつつあった時代。すべてにおいて自意識過剰で内性・外性の大きな振幅の中で人生に対する漠然とした不安、微かなる希望と生の欲望とが混然と渦巻いていた時期であった。まわりは「裕次郎。にあこがれ、白ばいグスターコート（裏は黒）やサングラスそして裕次郎刈りの頭と歌も流行った。ジャックナイフをキャラチャラさせながら低く「砂山の砂を指で握ってたら真赤に錆びたジャックナイフが出てきたヨ……」と歌っていた〇〇科の生徒もいた。

春になると窓から桜の花びらが風と共に教室に舞い込んで、ポーッと眺めていたりした頃。

男女共学であるが机は男女左右に分けられていたこともあり（中学校では男、女、男、女の配列であった）異

上市高校普通科 第11回（昭和34年3月卒）

### 北岡 宏紀

性にも強いあこがれを持ち、夏のブラウスからすけて見える薄肌にも心をときめかせたり、幼なかったあの頃。

進路が決まり出してから各々たくましくなってきた三年生。“あ・ばれ。の古文、“ロングロングタイムアゴー。の英語も懐しい。そして皆卒業して校舎を去って行った。

今は子を持つ親となり、上の子は20才を超えた。住宅・教育・雑費の高みに喘ぐ時代。そして父や母を失っていく時代、誰もが多分それらに近い状況にあるだろう。

集まりそして散じ、年を経ての再会、共に学んだ上市高校。一人ひとりの思い出は胸にあって言葉ではすべてを語れない。ともあれ、これが私達の時代なのだ。人生は長く延びた。後半戦を楽しく有意義に運る工夫を始めよう！

“老いは早し。。”ひょっとすると同窓会はそういった人生の後半戦を生き抜く戦略・戦術が愉快的な会話の中から漏れてくる場になるのかもしれない。いや、是非そうしたいものである。回顧の中から未来を創る。訳のわからぬ御託を並べた。乞許。恩師・同窓生皆様のご健康を切に祈り筆を置く。

## 卒業20年

### “高校生活の思い出”

卒業して早20年。長い様で短い20年であったように思います。

昭和42年に農林工学科通称林科に入学、私の上高生活は、「良く学び、良く遊び」であった。植樹祭では、昭和天皇を真近に拝見し、クラブ活動では、軽音楽部に入部し、養護施設の慰問や学園祭での発表会等、楽しい思い出が甦ります。勉強よりも、クラブ活動優先で、先生泣

上市高校農林工学科 第22回（昭和45年3月卒）

### 酒井 勉

かせのクラスだった事が、今では良き思い出になっております。私達も38、9才の年齢になり家庭においては小・中学生の親となり、社会においても中堅として、公私共に責任のある立場になりましたが、上高で学び遊んだ事を誇りに思い、卒業30年・40年……を迎えたいと思います。



## 卒業10年

### “あの環境が今も脳裏に”

地鉄上市駅を降り、古い町並みの中を曲りくねって通る細い路地を20分ばかり歩くとやがて上市川にさしかかる。その橋の向こうに建つ白い校舎、それが上市高校である。校門から校舎までの百メートル程の道の両側に林立する桜は、自ずからの葉をきれいに脱ぎすて、そのたくましくすがすがしい素肌を露わにし、空いっぱいに広げた枝先には小さな新芽が顔をのぞかせていた。頂に雪を残した立山連山は、剣岳を中央にその雄大な姿を見せ

## 卒業50年

### “恩師、学友に感謝”

戦時色濃い昭和15年春、私達は母校上市農学校を巣立った。そして今年で丁度50年。織田信長の言葉を借りるまでもなく、正に夢幻のような50年であった。

思えば、長いようで短かった半世紀。その間、日本は第二次世界大戦に敗れ、更に戦後の困難な時代を堪えぬいて今日の繁栄を迎えたわけであるが、戦中戦後、多くの先輩学友が、或は戦野に、或は職場に若い生命を散らせて逝った。

幸い私達は、農学校在学中は立派な先生方の教えを受け、友情に厚い級友に支えられて学園生活を送り、そして今もこうして生きていることの幸せをかみしめる今日この頃である。兎角、最近のことは忘れがちだが、上市農学校で学んだ日々のことは、つい昨日のこのように思い出される。

#### 沓先生のこと

養蚕の沓先生は、小柄な先生であったが、仲々きびしかった。しかし一方では、学問の新しい方向なども私達に話された。「雌雄性の決定はX染色体とY染色体によってきまるが、これを自由にコントロール出来れば、世の中は大きく変る」と話された。思えば、これが今話題になっているバイオテクノロジーの始まりであった。

上市高校普通科 第32回（昭和55年3月卒）

### 大門 俊彦

ていた。

昭和52年春、私はこの高校に入学した。そしてその空々とした3年間は、またたく間に過ぎていった。

卒業して10年。高校の教師となった今、毎年春になり、真新しい制服に身をつつんだ新入生を迎える折、あの時の、あの自分の歩いた通学路の光景が、過ぎた日の思い出として今も脳裏に浮かぶのである。

上市農学校農業科 第17回（昭和15年3月卒）

### 池上 光雄

#### 柴田先生のこと

卒業近くになって、数学は柴田先生に教わった。「紙と鉛筆さえあれば、数学の勉強はできる」というのが先生の特長であった。私は受験のための特訓もして頂いたが、特に上市町の教育長になられてからもお尋ねしてお世話になったことなど忘れることができない。

#### 水野先生のこと

私達の担任は、富山から電車を通っておられた國語の水野先生であった。「國語の勉強は辞書をひくことから」というので広辞林を買わされた。辞書は英語だけと思っていた私達に、國語の勉強の仕方を教えて下さった先生である。懐かしさと共に感謝の気持で一杯である。

#### 学友のこと

もともとテレビで力もなかった私は多くの学友に迷惑をかけた。特に農場実習では皆に助けてもらった。薬加工の作業を助けてくれたT君、実習日誌を見せてくれたY君、太っ腹でクラスのまとめ役でもあり、先生からの叱られ役でもあったK君。その他多くの友人にめくまれた上市農学校での学園生活は、私の思い出のふるさととして今も心の奥に生き続けている。